

Amedeo Modigliani, Le Jeune apprenti © RMN-GP (musée de l'Orangerie) / Hervé Lewandowski  
Graphisme: Cyrille Lebrun, Communication EPM/DO. Impression: Fabrégue, septembre 2016.

地下0階 **0** 「睡蓮」  
クロード・モネ作



インフォメーションとサービス

[www.musee-orangerie.fr](http://www.musee-orangerie.fr)

展示室退出時間 17:45

グループ見学には予約が必要です

音声ガイド

ファミリー用音声ガイド

手話/視覚がいが者/聴覚障がいが者用ガイド

**ライブラリー&ブティック**  
9:00 ~ 17:45

**カフェ**  
9:30 ~ 17:30

オーディトリウム 9:00 ~ 17:45

**アクティビティ** ワークショップは方々(大人や若者)を対象とし、テーマ別講座やアクティビティを提供しています。

**お体の不自由な方などのために** 車いす、杖、ベビーカー、ベビーカーの貸し出しを行っています。

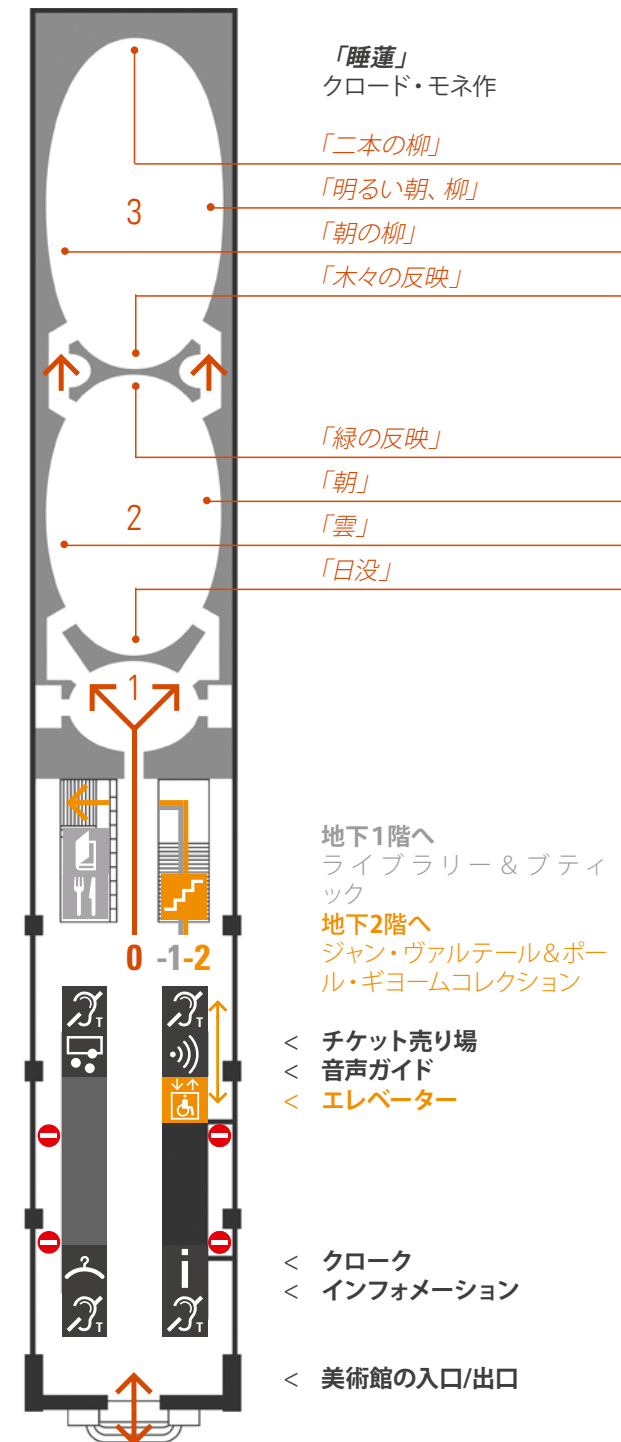
**磁気誘導ループ**  
複数の磁気誘導ループが存在するエリア



**PONTICELLI**  
GRAND MÉCÈNE

モネによって描かれた入口のホールは、街の喧騒とモネの作品の間に、ある種の隔たりを創り出す目的を持っています。1914年から1918年に及んだ戦争の翌日、フランスに「睡蓮」を寄贈することによって、モネはパリの人々に永遠に描かれた自然の前で、瞑想へと誘う安らぎの場を提供することを望みました。すなわち「仕事に疲れ切った神経は、そこで、淀んだ水に佇む風景に癒されるであろう。そしてこの部屋は、ここで過ごす者にとって、花咲く水槽の真ん中で、安らかな瞑想を行うための隠れ家となるであろう」。この絵画の計画を練り始めた1909年に、モネはこのように記しました。モネの真正正銘の芸術上の遺作であるこれらの「大装飾画」は、モネの生涯の集大成になっています。1914年から死ぬ(1926年)まで考えられたこれらの絵は、ジヴェルニーにモネが所有する「水の庭からインスピレーションを受けたものです。1886年以来モネは光の変化とリズムによって、この庭を表現することに打ち込みました。この2つの展示

室に表現された8枚のパネルは、東の朝から、西に夕陽が沈むまでという時の流れを連想させます。モネは水平線も、高低も表現していません。水、空気、空、大地という要素は、遠近法ではなく睡蓮の花々のリズムによる構成に溶け合っています。こうして画家モネは、「水平線も岸辺もなく、波紋によって果てしないすべての幻想」を表現したのです。画家モネの死から数ヶ月後にあたる1927年に、大衆に公開された「睡蓮」は、大衆やアヴァンギャルドを追求することにいつそう興味を持った批評家らに認められることはありませんでした。第二次世界大戦後、抒情的な抽象概念の理論家らの影響の下で、「睡蓮」の中に抽象芸術の根源が認められ、オランジュリー美術館は益々多くの大衆を獲得することになりました。





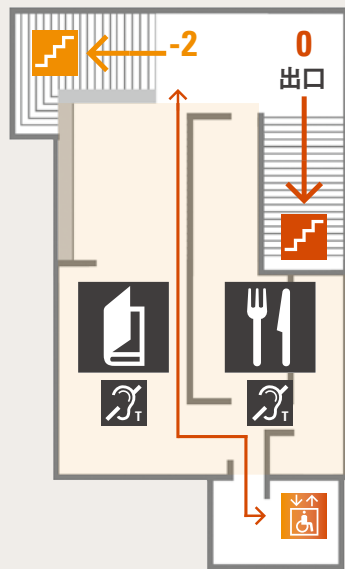
# -1

ライブラリー・ショップ  
カフェ

地下0階へ  
クロード・モネ作「睡蓮」  
出口

エレベーター

地下2階へ  
ジャン・ヴァルテール&ポール・ギヨームコレクション



# -2

## ジャン・ヴァルテール&ポール・ギヨームコレクション

ルノワール-セザンヌ - モディリアーニ - マチス - ピカソ - ドラン - スーティン

慎ましい家庭に生まれたポール・ギヨームは、自動車整備工場の従業員として仕事を始めます。1911年に、彼はガレージのショーケースにアフリカの小像を展示し、こうして彼の助言者となる詩人ギヨーム・アポリネールの注意を引きました。

1912年にポール・ギヨームは最初のギャラリーを開き、美術商と収集家としての経歴を開始します。ギヨームは、自らが証人となり庇護者となることを望んだ1920年代に、いち早く芸術界や文壇の著名人となりました。雑誌「レザール・ア・パリ (Les Arts à Paris)」を主宰し、ピカソ、スーティン、ドラン、マリー・ローランサンの支持を受けました。この雑誌は、アフリカ芸術を専門とし、したがってアヴァンギャルドの画家たちのインスピレーションの源泉でした。

近代美術館の計画の実現を得ずして、ギヨームは1934年に亡くなります。ギヨームの妻が修正し完成させたコレクションは、新古典主義や印象派の代表作品を中心としたもので、その後1959年にこれらの作品はフランス政府の手に渡ることになります。

Auguste Renoir, *Baigneuse aux cheveux longs*, vers 1885-1896 © RMN-GP



André Derain, *Arlequin et Pierrot*, 1923 © ADAGP, 2015



Amedeo Modigliani, *Paul Guillaume, Novo Ploča*, 1915 © RMN-GP



Chaim Soutine, *Le Village*, vers 1923 © ADAGP, 2015



**守護者:**ルノワール / セザンヌ  
ポール・ギヨーム コレクションは、洗練され教養があり好奇心の強いこの収集家の気質を映し出しています。彼は近代性と伝統の両方を認め、モディリアーニやスーティンのような新しい才能を発掘することに専念しました。またルノワールやセザンヌのように才能や革新的な精神が見て取れる認められた画家たちをおろそかにしませんでした。

**新古典主義:**マチス / ピカソ  
アンリ・マチスとポール・ギヨームの関係は、距離があるままでした。このことは、収集家ギヨームがマチスの油絵25点を手に入れることを妨げるものではありませんでした。妻ドメニカはニース時代 (1917年-1929年) の代表作10作品だけを手元に残しました。「灰色のキュロットのオダリスク」は、フォーヴィスム時代 (1905年-1908年) 以降のマチスの作風をよく表し、構成や入念に考えられた色の戯れによって、非常に独特な作風を作り上げています。

**秩序への回帰:**ピカソ / ドラン  
ポール・ギヨームは、1923年にアンドレ・ドランの主たる画商となり、1920年代から1930年代に最高の評判を獲得するこの画家に、途絶えることのない支持をもたらしました。オランジュリー美術館にささげられた油絵28点は、「秩序への回帰」と称される時代を物語っています。この時代はことのほか裸婦や静物が好まれ、古典主義の巨匠らがモデルを使ってデッサンした作品が多いことを特徴としています。そこでもまた近代性と伝統を両立させるポール・ギヨームの才能を認めることになります。

**プリミティビズム:**ルソー / モディリアーニ / ローランサン  
税関吏ルソー、アメデオ・モディリアーニ、マリー・ローランサンは、「プリミティビズム」の影響を受けた芸術家に属し、古典主義を踏襲する基準を絶ちながら、新たな表現方法を作り上げました。税関吏ルソーは、極めて独自のアプローチを展開しています。「田舎の結婚式」の絵は、その代表的な作品です。すなわちいくつもの直線によってリズムを与えられたこの構成において、新郎新婦の周りの集団は、浮かび上がったエキゾチックな木々のモチーフの上に重なっているように見えます。

**苦悩と噴出:**ユトリロ / スーティン  
美術館の最後のセクションでは、モーリス・ユトリロとシャイム・スーティンの苦悩に満ちた力強い作品を展示しています。これら二人の画家は、ポール・ギヨームの多様性を映し出しています。というのも彼はルノワールの優しさ、オランジュリー美術館がヨーロッパで最も素晴らしいコレクションを所有するスーティンの激しさの両方を認めています。シュザンヌ・ヴァラドンの息子であるモーリス・ユトリロは、孤独な苦悩の画家でしたが、非常に早い時期に、ポール・ギヨームの支持を受けました。パリやモンマルトルの風景は、特に好んで描かれるテーマのひとつでした。

ジャン・ヴァルテール&ポール・ギヨームコレクション

セザンヌ

マチス / ピカソ

モディリアーニ / ドラン / ローランサン

ルノワール

オランジュリー美術館の歴史

ルソー

ユトリロ / スーティン

ポール・ギヨームの部屋

室内画の部屋

ドランの「黄金時代」

地下0階へ  
「睡蓮」  
出口

オーディトリウム

展覧会

「黄色い堀」の壁

教室

